古文単語 活用形から見出し語へ ①

高校／波線の語を手がかりに、本文の形を引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
――線の語のすぐ下に続く語に、波線（〜〜）が引いてあります。この語を手がかりに活用形を決めます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」
（徒然草・第二十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 この国の博士どもの書けるものも、いにしへのは、あはれなる事多かり。（徒然草・第十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 「あの男こち寄れ」と召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに参りたりければ、……（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

4 はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

5 南面に下ろして、母君も、とみにえものものたまはず。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

6 ともに行く人々も、いといみじく物ゆかしげなるはいとほしけれど、物見て何にかはせむ。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

7 たやすくうち出でむも如何とためらひけるを、……
（徒然草・第二百三十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 木の葉にうづもるる筧の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・第十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

9 このごろの御気色を見たてまつる上人、女房などは、かたはらいたしと聞きけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

10 あやしくよそへきこえつべき心地なむする。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ②

高校／本文の形を一覧表で引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、単語一覧表で引ける形（見出し語＝終止形）にもどし、活用の種類と活用形を書きなさい。
右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きます。
活用形は、――線の語のすぐ下に続く語（助動詞・助詞・体言など）を手がかりに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 それを見れば、三寸ばかりなる人いとうつくしうて居たり。（竹取物語）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

2 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。
（徒然草・第百三十七段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

3 いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける
なかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて
時めきたまふありけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

4 やがてかけこもらましかば、くちをしからまし。
（徒然草・第三十二段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

5 「我こそ死なめ。」とて、泣きののしることいと堪へがたげなり。（竹取物語）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

6 東西は海ちかくていとおもしろし。夕霧たちわたりて、いみじうをかしければ（更級日記）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

7 つれづれなるままに、日ぐらし硯に向ひて、心にうつりゆくよしなしごとを（徒然草・序段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

8 上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ
（源氏物語・桐壺）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

9 次に医術をならふべし。身を養ひ人を助け、忠孝のつとめも、医にあらずばあるべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

10 因幡の国に、何の入道とかやいふものの女、かたちよしと聞きて、人あまたいひわたりけれども
（徒然草・第四十段）

見出し語 ／ 活用の種類 ／ 活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ③

高校／活用表を見ずに、本文の形を引ける形にもどす

名前 _____

日付 _____

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
この紙には活用表がありません。習った活用表を思い出し、語尾の形と、――線の語の下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 用ありて行きたりとも、その事果てなば疾く帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。
（徒然草・第百七十段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 その子、孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。（徒然草・第一段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 これを学ばむをば、いたづらなる人といふべからず。
（徒然草・第百二十二段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ことなり。
（徒然草・第二百三十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

5 六位の外記康綱、衣被の女房をかたらひて、かの宣命をもたせて、しのびやかに奉らせけり。
（徒然草・第百一段）

見出し語	活用の種類	活用形

6 次ざまの人は、あからさまに立ち出でても、興ありつることとて、息もつぎあへず語り興ずるぞかし。
（徒然草・第五十六段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 八重桜は異様のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなむ。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 「子安貝とらんと思しめさば、たばかり申さん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

9 公には、「筑紫の国に湯あみにまからん。」
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

10 その後翁・嫗、血の涙を流してまどへどかひなし。
（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ④

高校／下二段・ラ変・カリ活用・ウ音便もまぜて、もどす

名前 _____

日付 _____

——線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
活用表には、下二段活用・ラ行変格活用が入っています。カリ活用や、ウ音便になった形も出てきます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段
動詞下二段活用	エ段	エ段	ウ段	ウ段＋る	ウ段＋れ	エ段＋よ
動詞ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

「から・かり・かる・かれ」「しから・しかり・しかる・しかれ」は、カリ活用（補助活用）の形。
形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

2 「親・君と申すとも、かくつきなきことをおほせたまふこと。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

3 露霜にしほたれて、所さだめず……（徒然草・第三段）

見出し語	活用の種類	活用形

4 かぐや姫のいはく、「なでふさることかしはべらん。」（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形

5 われも人も、宿世のつたなかりければ、ありありてかく遥なる国になりにたり。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

6 唐めきたる名の聞きにくく、花も見なれぬなど、いとなつかしからず。（徒然草・第百三十九段）

見出し語	活用の種類	活用形

7 家にあり人に交はるとも、後世を願はむにかたかるべきかは。（徒然草・第五十八段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 いとどこの世のものならず清らにおよすげたまへれば、いとゆゆしう思したり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ⑤

高校／本文から見出し語の形を探して、活用を答える

名前 _____

日付 _____

右の枠の見出し語が、左の本文の中で活用した形で出ています。その語を探して――線を引きなさい。
右の2つの枠に、左から順にその語の活用の種類・活用形を書きなさい。見出し語の活用形は本文に1か所だけです。
この紙にも活用表はありません。活用形は、その語のすぐ下に続く語を手がかりに決めます。
――線の語のすぐ下が「。」で文が終わるときは、終止形です。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

1 帝はた、ましてえ忍びあへたまはず、思し紛るる折もありつる昔のこと、とりかへしかなしく思さる。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かなし		

2 七つになりたまへば、読書始めなどせさせたまひて、世に知らず聡う賢くおはすれば、あまり恐ろしきまで御覧ず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
かしこし		

3 人皆退きて、まめならん人一人を荒籠に載せすゑて、綱をかまへて……（竹取物語）

見出し語	活用の種類	活用形
まめなり		

4 この聖、声うちゆがみあらあらしくて、聖教のこまやかなる理、いと弁へずもやと思ひしに、……（徒然草・第百四十一段）

見出し語	活用の種類	活用形
こまやかなり		

5 偏に高き官位を望むも、次におろかなり。（徒然草・第三十八段）

見出し語	活用の種類	活用形
おろかなり		

6 かつをといふ魚は、かの境には双なきものにて、この頃もてなすものなり。（徒然草・第百十九段）

見出し語	活用の種類	活用形
もてなす		

7 ……心地にわづらひて、まかでなむとしたまふを、暇さらに許させたまはず。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形
わづらふ		

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 活用形から見出し語へ ①【こたえ】

名前 _____

高校／波線の語を手がかりに、本文の形を引ける形にもどす　　日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」（徒然草・第二十三段）

→ 下に用言「優なる」 → 連用形

見出し語：**めでたし**　活用の種類：**形容詞ク活用**　活用形：**連用形**

2 この国の博士どもの書けるものも、いにしへのは、あはれなる事多かり。（徒然草・第十三段）

→ 下に体言「事」 → 連体形

見出し語：**あはれなり**　活用の種類：**形容動詞ナリ活用**　活用形：**連体形**

3 「あの男こち寄れ」と召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに参りたりければ、……（更級日記）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形

見出し語：**かしこまる**　活用の種類：**動詞ラ行四段活用**　活用形：**連用形**

4 はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。（源氏物語・桐壺）

→ 下に体言「もの」 → 連体形

見出し語：**めざまし**　活用の種類：**形容詞シク活用**　活用形：**連体形**

5 南面に下ろして、母君も、とみにえものものたまはず。（源氏物語・桐壺）

→ 下に助動詞「ず」 → 未然形

見出し語：**のたまふ**　活用の種類：**動詞ハ行四段活用**　活用形：**未然形**

6 ともに行く人々も、いといみじく物ゆかしげなるはいとほしけれど、物見て何にかはせむ。（更級日記）

→ 下に接続助詞「ど」 → 已然形

見出し語：**いとほし**　活用の種類：**形容詞シク活用**　活用形：**已然形**

7 たやすくうち出でむも如何とためらひけるを、……（徒然草・第二百三十一段）

→ 下に助動詞「けり」（ける） → 連用形

見出し語：**ためらふ**　活用の種類：**動詞ハ行四段活用**　活用形：**連用形**

8 木の葉にうづもるる筧の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・第十一段）

→ 下に体言「もの」 → 連体形

見出し語：**おとなふ**　活用の種類：**動詞ハ行四段活用**　活用形：**連体形**

9 このごろの御気色を見たてまつる上人、女房などは、かたはらいたしと聞きけり。（源氏物語・桐壺）

→ 下に格助詞「と」（引用） → 終止形

見出し語：**かたはらいたし**　活用の種類：**形容詞ク活用**　活用形：**終止形**

10 あやしくよそへきこえつべき心地なむする。（源氏物語・桐壺）

→ 下に用言「よそへ」 → 連用形

見出し語：**あやし**　活用の種類：**形容詞シク活用**　活用形：**連用形**

古文単語 活用形から見出し語へ ②【こたえ】

名前 _____

高校／本文の形を一覧表で引ける形にもどす

日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	工段	工段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 それを見れば、三寸ばかりなる人いとうつくしうて居たり。（竹取物語）
→ 下に接続助詞「て」 → 連用形（ウ音便）

見出し語 **うつくし** ／ 活用の種類 **形容詞シク活用** ／ 活用形 **連用形**

2 花は盛りに、月はくまなきをのみ見るものかは。（徒然草・第百三十七段）
→ 下に助詞「を」（「くまなき月を」の「月」が省かれた形） → 連体形

見出し語 **くまなし** ／ 活用の種類 **形容詞ク活用** ／ 活用形 **連体形**

3 いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。（源氏物語・桐壺）
→ 下に補助動詞「たまふ」 → 連用形

見出し語 **ときめく** ／ 活用の種類 **動詞カ行四段活用** ／ 活用形 **連用形**

4 やがてかけこもらましかば、くちをしからまし。（徒然草・第三十二段）
→ 下に助動詞「まし」 → 未然形

見出し語 **くちをし** ／ 活用の種類 **形容詞シク活用** ／ 活用形 **未然形**

5 「我こそ死なめ。」とて、泣きののしることいと堪へがたげなり。（竹取物語）
→ 下に体言「こと」 → 連体形

見出し語 **ののしる** ／ 活用の種類 **動詞ラ行四段活用** ／ 活用形 **連体形**

6 東西は海ちかくていとおもしろし。夕霧たちわたりて、いみじうをかしければ（更級日記）
→ 下に接続助詞「ば」（〜ので） → 已然形

見出し語 **をかし** ／ 活用の種類 **形容詞シク活用** ／ 活用形 **已然形**

7 つれづれなるままに、日ぐらし硯に向ひて、心にうつりゆくよしなしごとを（徒然草・序段）
→ 下に体言「まま」 → 連体形

見出し語 **つれづれなり** ／ 活用の種類 **形容動詞ナリ活用** ／ 活用形 **連体形**

8 上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ（源氏物語・桐壺）
→ 用言「側め（つつ）」にかかる → 連用形

見出し語 **あいなし** ／ 活用の種類 **形容詞ク活用** ／ 活用形 **連用形**

9 次に医術をならふべし。身を養ひ人を助け、忠孝のつとめも、医にあらずばあるべからず。（徒然草・第百二十二段）
→ 下に助動詞「べし」（終止形に付く） → 終止形

見出し語 **ならふ** ／ 活用の種類 **動詞ハ行四段活用** ／ 活用形 **終止形**

10 因幡の国に、何の入道とかやいふものの女、かたちよしと聞きて、人あまたいひわたりけれども（徒然草・第四十段）
→ 下に助動詞「けり」（けれ） → 連用形

見出し語 **わたる** ／ 活用の種類 **動詞ラ行四段活用** ／ 活用形 **連用形**

古文単語 活用形から見出し語へ ③【こたえ】

高校／活用表を見ずに、本文の形を引ける形にもどす

名前 _____

日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

1 用ありて行きたりとも、その事果てなば疾く帰るべし。久しく居たる、いとむつかし。
（徒然草・第百七十段）

→ 文がここで終わる → 終止形

見出し語	活用の種類	活用形
むつかし	形容詞シク活用	終止形

2 その子、孫までは、はふれにたれど、なほなまめかし。（徒然草・第一段）

→ 文がここで終わる → 終止形

見出し語	活用の種類	活用形
なまめかし	形容詞シク活用	終止形

3 これを学ばむをば、いたづらなる人といふべからず。
（徒然草・第百二十二段）

→ 下に体言「人」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
いたづらなり	形容動詞ナリ活用	連体形

4 さがなき童どもの仕りける、奇怪に候ことなり。
（徒然草・第二百三十六段）

→ 下に体言「童」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
さがなし	形容詞ク活用	連体形

5 六位の外記康綱、衣被の女房をかたらひて、かの宣命をもたせて、しのびやかに奉らせけり。
（徒然草・第百一段）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
かたらふ	動詞ハ行四段活用	連用形

6 次ざまの人は、あからさまに立ち出でても、興ありつることとて、息もつぎあへず語り興ずるぞかし。
（徒然草・第五十六段）

→ 用言「立ち出で」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
あからさまなり	形容動詞ナリ活用	連用形

7 八重桜は異様のものなり。いとこちたくねぢけたり。植ゑずともありなむ。（徒然草・第百三十九段）

→ 用言「ねぢけ（たり）」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
こちたし	形容詞ク活用	連用形

8 「子安貝とらんと思しめさば、たばかり申さん。」
（竹取物語）

→ 下に補助動詞「申す」（申さ） → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
たばかる	動詞ラ行四段活用	連用形

9 公には、「筑紫の国に湯あみにまからん。」
（竹取物語）

→ 下に助動詞「ん（む）」 → 未然形

見出し語	活用の種類	活用形
まかる	動詞ラ行四段活用	未然形

10 その後翁・嫗、血の涙を流してまどへどかひなし。
（竹取物語）

→ 下に接続助詞「ど」 → 已然形

見出し語	活用の種類	活用形
まどふ	動詞ハ行四段活用	已然形

古文単語 活用形から見出し語へ ④【こたえ】

名前 _____

高校／下二段・ラ変・カリ活用・ウ音便もまぜて、もどす　　日付 _____

赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段
動詞下二段活用	エ段	エ段	ウ段	ウ段＋る	ウ段＋れ	エ段＋よ
動詞ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

「から・かり・かる・かれ」「しから・しかり・しかる・しかれ」は、カリ活用（補助活用）の形。
形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 夕月夜のをかしきほどに出だし立てさせたまひて、やがてながめおはします。（源氏物語・桐壺）

→ 下に用言「おはします」 → 連用形（未然形と同じ形）

見出し語	活用の種類	活用形
ながむ	動詞マ行下二段活用	連用形

2 「親・君と申すとも、かくつきなきことをおほせたまふこと。」（竹取物語）

→ 下に補助動詞「たまふ」 → 連用形（未然形と同じ形）

見出し語	活用の種類	活用形
おほす	動詞サ行下二段活用	連用形

3 露霜にしほたれて、所さだめず……（徒然草・第三段）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形（未然形と同じ形）

見出し語	活用の種類	活用形
しほたる	動詞ラ行下二段活用	連用形

4 かぐや姫のいはく、「なでふさることかしはべらん。」（竹取物語）

→ 下に助動詞「ん（む）」 → 未然形

見出し語	活用の種類	活用形
はべり	動詞ラ行変格活用	未然形

5 われも人も、宿世のつたなかりければ、ありありてかく遥なる国になりにたり。（更級日記）

→ 下に助動詞「けり」（けれ） → 連用形（カリ活用）

見出し語	活用の種類	活用形
つたなし	形容詞ク活用	連用形

6 唐めきたる名の聞きにくく、花も見なれぬなど、いとなつかしからず。（徒然草・第百三十九段）

→ 下に助動詞「ず」 → 未然形（カリ活用）

見出し語	活用の種類	活用形
なつかし	形容詞シク活用	未然形

7 家にあり人に交はるとも、後世を願はむにかたかるべきかは。（徒然草・第五十八段）

→ 下に助動詞「べし」（べき）。カリ活用の「かる」は連体形 → 連体形（カリ活用）

見出し語	活用の種類	活用形
かたし	形容詞ク活用	連体形

8 いとどこの世のものならず清らにおよすげたまへれば、いとゆゆしう思したり。（源氏物語・桐壺）

→ 用言「思し」にかかる → 連用形（ウ音便）

見出し語	活用の種類	活用形
ゆゆし	形容詞シク活用	連用形

古文単語 活用形から見出し語へ ⑤【こたえ】

名前 _____

高校／本文から見出し語の形を探して、活用を答える　日付 _____

赤い線と赤い字がこたえです。「→」は活用形を決めた手がかり（下に続く語）です。
形が同じになる活用形（「く」の未然形と連用形など）は、下に続く語で1つに決めます。

1 帝はた、ましてえ忍びあへたまはず、思し紛る折もありつる昔のこと、とりかへし**かなしく**思さる。（源氏物語・桐壺）

→ 用言「思さる」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
かなし	形容詞シク活用	連用形

2 七つになりたまへば、読書始めなどせさせたまひて、世に知らず聡う**賢く**おはすれば、あまり恐ろしきまで御覧ず。（源氏物語・桐壺）

→ 用言「おはす」にかかる → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
かしこし	形容詞ク活用	連用形

3 人皆退きて、**まめなら**ん人一人を荒籠に載せすゑて、綱をかまへて……（竹取物語）

→ 下に助動詞「ん（む）」 → 未然形

見出し語	活用の種類	活用形
まめなり	形容動詞ナリ活用	未然形

4 この聖、声うちゆがみあらあらしくて、聖教の**こまやかなる**理、いと弁へずもやと思ひしに、……（徒然草・第百四十一段）

→ 下に体言「理」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
こまやかなり	形容動詞ナリ活用	連体形

5 偏に高き官位を望むも、次に**おろかなり**。（徒然草・第三十八段）

→ 文がここで終わる → 終止形

見出し語	活用の種類	活用形
おろかなり	形容動詞ナリ活用	終止形

6 かつをといふ魚は、かの境には双なきものにて、この頃**もてなす**ものなり。（徒然草・第百十九段）

→ 下に体言「もの」 → 連体形

見出し語	活用の種類	活用形
もてなす	動詞サ行四段活用	連体形

7 ……心地に**わづらひ**て、まかでなむとしたまふを、暇さらに許させたまはず。（源氏物語・桐壺）

→ 下に接続助詞「て」 → 連用形

見出し語	活用の種類	活用形
わづらふ	動詞ハ行四段活用	連用形